# 博士後期課程

## 1. 目的

世界に先駆けて超高齢社会を経験し、その健康課題に先進的に取り組んできた島根県においては、超高齢社会における健康課題の解明とその看護に焦点を当てた研究による看護方法の開発や知の構築を行っていく必要がある。

今後、さらに複雑さを増すことが予測される超高齢・長寿社会における健康問題に適切に対応して、人々の健康生活を支えるためには、これまで提唱されてきた加齢の諸理論や、培ってきた高齢看護学の知識・方法等をさらに発展させて、新たな知識と方法の集積による理論の体系化、すなわち「超高齢看護学」を構築することが急務である。

看護学専攻博士後期課程は、超高齢看護学の理論体系化に資する水準の独創的な看護学研究を自立して実施し、超高齢看護学の発展に寄与することを目的とする。

## 2. 目標

「超高齢看護学」を構築するための高水準で独創的な看護学研究を自立して実施し、看護の質向上に貢献することによって、人々が豊かな人生を享受できる超高齢社会の実現に寄与することのできる教育研究者を養成する。

## 3. 履修方法

専門科目として、「超高齢看護開発特講」と「安全ケアシステム開発特講」の2科目4単位に加えて、「研究方法特講」2単位、「超高齢看護学研究演習」2単位、「超高齢看護学特別研究」6単位、関連科目から1科目2単位以上の合計16単位以上を履修する。

## 4. 学位論文審査

論文は、「超高齢看護学」としての学術的意義、新規性、創造性、応用的価値の観点から審査することとし、口頭発表と口頭試問による公開の最終試験を実施する。

## 5. 修了の要件

本課程に原則として３年以上在学し、専門科目の必修科目１４単位、関連科目の選択科目から２単位以上の合計１６単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文審査並びに最終試験に合格することとする。

## 6. 学位授与

博士（看護学）

## 7. 学位論文の公表

博士（看護学）の学位を授与された者は、学位論文が学術論文として印刷、公開されるよう、指導教員の指導のもとに、学位を授与された日から 1 年以内に関連分野の学会誌に投稿することを原則とする。ただし、学位が授与される以前にすでに印刷公開している場合は、この限りではない。

## 8. 長期履修制度と修業年限

修業年限は 3 年であるが、社会人学生の就学を支援するために、島根大学学則第 29 条に則り、長期履修制度を導入する。

申請により当該制度の利用許可を得た学生は、修業年限の 2 倍の年限まで修業することができる。

## 9. 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学料については、経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情（入学前 1 年以内に、入学する者の学資負担者が死亡、または、入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等）により納付が困難であると認められる者に対して、その全額または半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度がある。

授業料については、全額または半額が免除される制度がある。

## 10. 奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

学業成績、人物とも優れた学生で、経済的理由により修学困難な者には、選考のうえ奨学金が貸与される。（平成 28 年度貸与月額　第一種：無利子　80,000 円または 122,000 円、第二種：有利子　50,000 円・80,000 円・100,000 円・130,000 円・150,000 円）

## 11. 学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中に万一事故等により、身体等に損害を被った場合あるいは他人に対する賠償責任が発生した場合に保険金を支払う制度である。財団法人日本国際教育支援協会が実施し、学生全員が加入する保険である。

## 12. 看護学専攻博士後期課程カリキュラム

| 区分 | 授業科目名 | 配当年次 | 単位数 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 専門科目 | 超高齢看護開発特講 | 1（前） | 2 | | 必修科目14単位修得すること |
| | 安全ケアシステム開発特講 | 1（前） | 2 | | |
| | 研究方法特講 | 1（前） | 2 | | |
| | 超高齢看護学研究演習 | 1（通） | 2 | | |
| | 超高齢看護学特別研究 | 1～3 | 6 | | |
| 関連科目 | 地域がん治療学 | 1（後） | | 2 | 選択科目から2単位以上修得すること |
| | がん医療社会学 | 1（後） | | 2 | |
| | 緩和ケア学 | 1（後） | | 2 | |
| | 環境医学Ⅰ | 1（後） | | 2 | |
| | 環境医学Ⅱ | 1（後） | | 2 | |
| | 医学・医療情報学Ⅰ | 1（後） | | 2 | |
| | 地域医療学Ⅰ | 1（後） | | 2 | |
| | 地域医療学Ⅱ | 1（後） | | 2 | |
| | 総合診療学Ⅰ | 1（後） | | 2 | |
| | 総合診療学Ⅱ | 1（後） | | 2 | |
| | 臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用 | 1（後） | | 2 | |
| | 知的財産と社会連携 | 1（後） | | 2 | |
| | 機能性物質・食品の医療応用と環境影響 | 1（後） | | 2 | |
| 修了に必要な単位数 | | 16単位 | | | |

## 13. 平成29年度:専門科目担当者一覧

| 区分 | 科目名 | 担当教員　〇：責任者 |
|---|---|---|
| 専門科目 | 超高齢看護開発特講 | 〇原・小笹・内田・津本・泉（嘱託） |
| | 安全ケアシステム開発特講 | 〇内田・津本･原・小笹・石垣（嘱託） |
| | 研究方法特講 | 〇橋本･原・内田・小林裕（特任）・出口（学内）・稲垣（学内）・中村（学内） |
| | 超高齢看護学研究演習 | 原・内田・小林裕（特任）・橋本・福田・小笹・津本・福間<br>多田（特任）・加藤（特任）・倉鋪（特任）・小林祥（特任）・塩飽（特任）<br>出口（学内）・稲垣（学内）・嘉数（学内）・小黒（学内） |
| | 超高齢看護学特別研究 | 研究指導教員<br>原・内田・小林裕（特任）・橋本・福田・津本<br>多田（特任）・加藤（特任）・倉鋪（特任）・小林祥（特任）・塩飽（特任）<br>出口（学内）・稲垣（学内）・嘉数（学内）・小黒（学内）<br>研究指導補助教員<br>小笹・福間 |

### 14. 履修モデル

- モデルA「認知症高齢者の看取りにおける地域包括ケアモデルの有効性に関する研究」
- モデルB「超高齢･過疎地域における後期高齢者のソーシャル･サポートと健康との関連に関する研究」
- モデルC「ICT の活用による地域包括ケアにおける安全管理システムの開発に関する研究」
- モデルD「多職種協働による地域包括ケアをリードする看護専門職育成モデルの開発に関する研究」

| 区分 | 科目名 | 配当年次 | 単位数 | 必修・選択の別 | 履修要件 | モデルA | モデルB | モデルC | モデルD |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門科目 | 超高齢看護開発特講 | 1 | 2 | 必修 | ● ２単位 | ● | ● | ● | ● |
| | 安全ケアシステム開発特講 | 1 | 2 | 必修 | ● ２単位 | ● | ● | ● | ● |
| | 研究方法特講 | 1 | 2 | 必修 | ● ２単位 | ● | ● | ● | ● |
| | 超高齢看護学研究演習 | 1 | 2 | 必修 | ● ２単位 | ● | ● | ● | ● |
| | 超高齢看護学特別研究 | 1～3 | 6 | 必修 | ● ６単位 | ● | ● | ● | ● |
| 関連科目 | 地域がん治療学 | 1 | 2 | 選択 | ○ | | | | |
| | がん医療社会学 | 1 | 2 | 選択 | ○ | | | | |
| | 緩和ケア学 | 1 | 2 | 選択 | ○ | | | | |
| | 環境医学Ⅰ | 1 | 2 | 選択 | ○ | | | | |
| | 環境医学Ⅱ | 1 | 2 | 選択 | ○ | | | | |
| | 医学・医療情報学Ⅰ | 1 | 2 | 選択 | ○ 2単位 | | | | ○ |
| | 地域医療学Ⅰ | 1 | 2 | 選択 | ○ 以上 | | ○ | | |
| | 地域医療学Ⅱ | 1 | 2 | 選択 | ○ | | | | |
| | 総合診療学Ⅰ | 1 | 2 | 選択 | ○ | ○ | | | |
| | 総合診療学Ⅱ | 1 | 2 | 選択 | ○ | | | | |
| | 臨床医学と社会･環境医学への高度情報学の応用 | 1 | 2 | 選択 | ○ | | | ○ | |
| | 知的財産と社会連携 | 1 | 2 | 選択 | ○ | | | | |
| | 機能性物質・食品の医療応用と環境影響 | 1 | 2 | 選択 | ○ | | | | |
| 合　計 | | | | | 16単位以上 | 16単位 | 16単位 | 16単位 | 16単位 |

注）●専門科目は１４単位必修
　　○関連科目は２単位以上選択

## 15. 入学から修了までのスケジュール

| | | |
|---|---|---|
| 1年次 | 4月 | ・入学<br>・入学時オリエンテーション：教育課程、履修方法、研究の進め方、学位論文の審査等についてガイダンスを行う。<br>・指導教員の決定<br>・個別履修指導：指導教員の指導のもとに履修科目を選択し、履修する。 |
| | 10月 | ・指導教員の指導のもとに、研究課題の焦点化と研究計画書の作成をすすめる。 |
| | 2～3月 | ・中間発表会：検討してきた研究計画について発表する。 |
| 2年次 | 4～5月 | ・看護研究倫理委員会で研究計画書の審査を行う。<br>・調査フィールド（病院・施設・機関等）の倫理委員会の審査を受ける。<br>・研究計画書にそって、研究をすすめる。 |
| | 11～12月 | ・中間発表会：学位論文に係る研究の進捗状況について発表する。 |
| 3年次 | 4～9月 | ・学位論文の研究成果の一部を国内外の学会等で発表する。 |
| | 12月 | ・予備審査：学位論文の草稿等について予備審査を行う。 |
| | 1月 | ・学位論文審査願及び学位論文の提出 |
| | 2月 | ・学位論文審査（論文審査・最終試験）<br>・学位論文の合否を研究科委員会で決定する。 |
| | 3月 | ・博士後期課程修了・学位授与 |

## 16. 研究指導の標準的なスケジュール

| 年次 | 学期 | 大学院生の研究活動 | 研究指導の方法 |
|---|---|---|---|
| 1年次 | 前期 | ・研究課題の焦点化と研究方法の検討 | ・主研究指導教員は、入学時に大学院生の研究テーマに即して決定する。 |
| | | | ・副研究指導教員と研究指導補助教員は、大学院生及び主研究指導教員との合意により入学後に決定する。 |
| | | | ・指導教員*は、研究課題の焦点化と研究計画について指導する。 |
| | | ・フィールドワーク | |
| | 後期 | ・フィールドワーク | ・指導教員は、研究計画の立案を指導する。 |
| | | ・研究方法の決定 | |
| | | ・研究計画の検討、研究計画書の作成 | |
| | | ・中間発表会での研究計画発表 | ・指導教員は、中間発表会における他の教員の助言や指導を踏まえて、研究計画の修正について指導する。 |
| | | ・看護研究倫理委員会の予備点検による研究計画の審査を受ける | ・指導教員は、予備点検の結果に応じて、研究計画の整備と看護研究倫理委員会における審査に向けて指導する。 |
| 2年次 | 前期 | ・看護研究倫理委員会への審査申請 | |
| | | ・看護研究倫理委員会の審査結果を踏まえた研究計画の見直しと研究計画書の修正 | ・指導教員は、看護研究倫理委員会の審査結果に応じた研究計画の見直しと研究計画書の修正について指導する。 |
| | | ・研究計画書にそった研究活動の展開 | ・看護研究倫理委員会で承認された研究計画書に基づいて、指導教員は、大学院生の研究の進捗状況を確認しながら研究遂行を指導する。 |
| | | ・リサーチ・アシスタントとして積極的に本学の研究プロジェクト等に参画 | ・指導教員は、学生が必要な研究補助を担うことができるように支援し、研究チームにおける研究遂行を指導する。 |
| | 後期 | ・中間発表会での研究内容発表 | |
| | | ・中間発表会における研究指導教員以外の教員の助言や指導を踏まえた研究活動の継続 | ・指導教員は、中間発表会における他の教員の助言や指導を踏まえて、これ以降の研究活動について指導する。 |
| 3年次 | 前期 | ・学位論文の作成 | ・指導教員は、学位論文の作成に関して指導する。 |
| | | ・学位論文の研究成果の一部を国内外の学会で発表 | ・指導教員は、学生の学会発表における抄録作成、プレゼンテーションについて指導する。 |
| | | ・予備審査の資料作成 | ・指導教員は、予備審査の資料作成に関して指導する。 |
| | 後期 | ・予備審査委員会による査読及び修正指導の審査 | ・指導教員は、予備審査の結果に応じた学位論文の修正について指導する。 |
| | | ・学位論文審査委員会への審査申請 | ・指導教員は、大学院生が学位論文を完成させ、学位論文の審査を受けるための指導をする。 |
| | | ・学位論文の審査及び最終試験（口頭試問） | |
| 修了後1年以内 | | ・学位論文を国内外の看護系学会誌または保健・医療系学会誌等に投稿 | ・指導教員は、学会誌に投稿する論文の作成に関して、論文が受理されるまで指導する。 |

＊指導教員：主研究指導教員、副研究指導教員及び研究指導補助教員

# 科 目 解 説

# 超高齢看護開発特講
Advanced Lecture/Seminar on Development of Nursing Care in Super Aged Society

開講年次：1年次（前期）　　単位数：２単位

○原　　祥 子：地域・老年看護学講座教授
小笹　美子：地域・老年看護学講座教授
泉　キヨ子：嘱託講師
（帝京科学大学医療科学部看護学科教授）
内田　宏美：基礎看護学講座教授
津本　優子：基礎看護学講座教授

１．科目の教育方針

現在、日本は世界最長寿国であるとともに、後期高齢者の急激な増加という、世界的に前例のない超高齢社会を迎えている。この超高齢社会における人々の生涯にわたる健康と尊厳ある生活･療養を支援するために、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた様々な健康課題を包括的に捉えたうえで、新たな看護ケア方法の開発や理論開発による健康課題解決の可能性を追究する。

２．教育目標

１）国内外の研究・実践の動向を多角的に分析し、超高齢社会における顕在的及び潜在的な健康課題を整理する。

２）国内外の論文クリティークを通して、超高齢社会における人々の健康課題解決に向けた研究開発の方向性を見極め、研究課題を探索する。

３．教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

最終回は、安全ケアシステム開発との合同セッションとし、研究開発による「超高齢看護学」の構築を展望する。

【評価】

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況等により総合的に評価する。

４．使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【論文クリティークのための参考文献】

１）山川みやえ，牧本清子：研究手法別のチェックシートで学ぶ　よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会，2014.

２）牧本清子：エビデンスに基づく看護実践のためのシステマティックレビュー，日本看護協会出版会，2013.

5．教育内容

<table>
<tr><th>回</th><th>月/日</th><th>内　　容</th><th>講師</th></tr>
<tr><td>1</td><td>4/10</td><td>高齢看護学で活用されている理論・アプローチの動向と限界</td><td>原　祥子</td></tr>
<tr><td>2</td><td>4/24</td><td rowspan="6">※学生の看護実践に基づく問題意識や以下のテーマに関する国内外の論文クリティーク（システマティックレビュー（SR）の検索データベース JBI COnNECT+（Aged Care 領域など）やコクラン・ライブラリーに収載されている SR のクリティークによる臨床ケアの方向性の検討を含む）を通して、超高齢社会における人々の健康課題を整理し、その解決に向けた研究開発の方向性を探究する。<br>・高齢者の自我発達支援<br>・高齢者のエンパワメントの概念と実践<br>・高齢者の健康生活評価（包括的アセスメント）<br>・後期高齢者･超高齢者の QOL 評価<br>・フレイル(frailty)の予防･介入　・認知症ケア　・エンドオブライフケア<br>・高齢者の家族介護者支援　・高齢者ケアの質評価、標準化<br>・高齢者医療・看護における倫理的課題<br>・ケアコーディネーションの理論･方法論の開発</td><td rowspan="6">原　祥子</td></tr>
<tr><td>3</td><td>4/24</td></tr>
<tr><td>4</td><td>5/1</td></tr>
<tr><td>5</td><td>5/1</td></tr>
<tr><td>6</td><td>5/8</td></tr>
<tr><td>7</td><td>5/8</td></tr>
<tr><td>8</td><td>5/15</td><td>人々の健康行動の形成を促す理論・アプローチ、地域のストレングスを促進するためのコミュニティケアに関する研究の動向と限界</td><td>小笹美子</td></tr>
<tr><td>9</td><td>5/15</td><td rowspan="3">※国内外の論文クリティークを通して、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた人々の健康課題を整理し、その解決に向けた研究開発の方向性を探究する。<br>・高齢者の生きがいや社会参加への支援<br>・高齢者のヘルスリテラシーと健康との関連<br>・人々の信頼関係や地域のネットワークに基づく健康づくり活動の推進<br>・高齢・過疎地域における減災<br>・高齢期への備えとしての成人保健対策の強化と効果的な健康教育</td><td rowspan="3">小笹美子</td></tr>
<tr><td>10</td><td>6/5</td></tr>
<tr><td>11</td><td>6/5</td></tr>
<tr><td>12</td><td>未定</td><td>高齢者リハビリテーション看護学で活用されている理論・アプローチの動向と限界</td><td>泉キヨ子</td></tr>
<tr><td>13</td><td>未定</td><td>高齢者の転倒・骨折予防に関するプログラムやシステムの開発における現状と課題</td><td>泉キヨ子</td></tr>
<tr><td>14</td><td>7/24</td><td rowspan="2">※安全ケアシステム開発との合同セッション<br>総括：研究開発による「超高齢看護学」構築の展望</td><td rowspan="2">原　祥子<br>小笹美子<br>内田宏美<br>津本優子</td></tr>
<tr><td>15</td><td>7/24</td></tr>
</table>

# 安全ケアシステム開発学特講

Advanced Lecture/Seminar on Development of Safety Nursinng Care System

開講年次：1年次（前期）　　単位数：２単位

○内田 宏美：基礎看護学講座 教授
津本 優子：基礎看護学講座 准教授
石垣 恭子：兵庫県立大学応用情報科学研究科 教授
原　 祥子：地域・老年看護学講座 教授
小笹 美子：地域・老年看護学講座 教授

１．科目の教育方針・教育の目的

超高齢社会を支える包括ケアのネットワーキングにおいて、ケアの質・安全を保障する観点から、ケアサービス提供にかかる課題を探究する。超高齢社会における様々な健康課題に対して、保健医療福祉看護関連の制度政策の提案も視野に入れて、安全で質の高いケアを組織的・系統的に提供するためのケア提供方法や人材育成・活用、包括ケアにおける安全システムの開発とリーダーシップ、包括ケアにおけるケア情報システムの開発等々、ケアの質・安全と社会システムとの関係を多角的に探索し、超高齢社会を支える安全ケアシステムの開発や理論開発の方向性を見出す。

２．教育目標

１）超高齢社会のケアを包括的に支援するシステム構築の必要と意義、開発上の課題を明らかにする。
２）超高齢社会のケア包括支援システム構築における、看護情報システム導入・活用の在り方、開発の方向性と課題を明らかにする。
３）安全ケアシステムを基盤としたケア包括支援システム構築のあり方と課題、効果的な運用について検討する。
４）上記をとおして、超高齢社会における安全ケアシステム開発上の研究課題を探索する。

３．教育の方法、進め方、評価等

【進め方】　講義および学生のプレゼンテーション、討論によって進める。

【知の統合】最終回に、超高齢社会看護開発学との合同セッションを持ち、「超高齢社会看護学」の知の構造化を図る。

【評価】プレゼンテーション、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断。

４．テキスト（テキストは指定しない。関連図書、関連の学術論文等を適宜提示する。）

【参考図書】

１）井部俊子・中西睦子監修『看護管理学習テキスト①－⑦』日本看護協会出版会
２）Rebecca.A.Patronis Jones 『Nursing Leadership and Management -—Theories, Processes and Practice』F.A.DAVIS COMPANY, 2007
３）R.Curtis『Integrated Care: Applying Theory to Practice』
４）筒井孝子『地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略—integrated care の理論とその応用』中央法規、2014
５）American Society for Healthcare Risk Management (ASHRM) (著), Roberta Carroll (編集) : Risk Management Handbook for Health Care Organizations, 3 Volume Set, 2010

５．教育内容　　　　　　　　　　　　　　　　（原則として 18:00～19:30 開講）

| 回 | 月日 | 内　　　容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| ※ 各単元で、国内外の文献をクリティークし、超高齢社会を安全管理の観点から支えるケアシステム開発上の研究課題を探究する。 | | | |
| 1<br>2<br>3 | 4/17<br>16:00<br>~21:00 | ・integrated care（包括ケア）のネットワークにおける安全管理システムの現状<br>・包括ケアシステムにおける安全管理システム開発上の課題<br>・ケアサービスの標準化とケアの質・安全保証<br>・包括ケアのネットワークへの安全管理システム導入戦略<br>・安全管理システム稼働によるケアの質評価指標の検討<br>・包括ケアシステムにおける安全管理者育成戦略と課題<br>・ネットワーク組織論、変革理論、リーダーシップ理論の包括ケアシステムへの適用と課題 | 内田 |
| 4<br>5<br>6 | 5/22<br>16:00<br>~21:00 | | |
| 7 | 5/29 | ・包括ケアにおける看護管理者のリーダーシップ能力開発戦略と課題 | 内田 |
| 8 | 6/5 | ・療養型医療施設における看護・介護職の実践能力を向上するケア評価システムの開発 | 石垣 |
| 9 | 6/12 | ・超高齢社会における看護情報システム構築戦略と課題 | 津本 |
| 10 | 6/19 | ・地域賦活ケアにおける保健医療福祉情報管理システム構築におけるケアの質・安全保証の戦略と課題 | 石垣 |
| 11 | 6/26 | ・超高齢社会における安全で質の高い看護実践を支援するための看護情報システム開発戦略と課題<br>・看護情報システムと安全管理システムとの有機的連動によるケアの質・安全保証戦略と課題 | 津本 |
| 12 | 7/3 | | |
| 13 | 7/10 | | |
| 14<br>15 | 7/24<br>18:00~<br>21:00 | 総括：超高齢社会における健康課題と健康支援システムを安全管理の観点から、保健･医療･福祉の有機的連携による安全で質の高いケア提供システム開発のための研究課題を明らかにし、超高齢看護開発特講との融合による｢超高齢看護学｣を展望する。 | 内田<br>津本<br>原<br>小笹 |

# 研究方法特講

Advanced Lecture on Research Method

開講年次：1年次（前期）　単位数：２単位

○橋本　龍樹：臨床看護学講座　教授
原　　祥子：地域・老年看護学講座　教授
内田　宏美：基礎看護学講座　教授
小林　裕太：特任教授
出口　顯　：法文学部社会文化学科　教授
稲垣　卓司：教育学部心理･発達臨床講座　教授
中村　守彦：産学連携センター　教授

## １．科目の教育方針

博士前期課程で学習した研究方法を踏まえたうえで、博士後期課程において超高齢看護学特別研究を行うために必要な研究アプローチについて、看護学に限らず、文化人類学・医学・生物学などで用いられる研究方法を幅広く学習する。また、英語の論文を作成するために必要な基本的ルールと技術を学ぶ。

## ２．教育目標

講義では、質的研究であるGrounded theory、Ethnography Research、現象学、解釈学を取り上げ、自らの研究領域の研究の概観を探求する。また、主に量的な研究手法をとる医学的研究方法(精神･心理学、生化学、形態学、細胞生物学、分子生物学、生理学、薬理学)や、アクションリサーチについても解説する。本科目を修得することで、学生の研究に医学･社会学的な視点を入れることができ、学際的な研究を進めることができるようになる。併せて英語論文を読む能力と作成する方法を修得する。

## ３．教育方法、進め方、評価等

講義形式を基本とする。教育内容によっては、実際の学術論文の読解など演習的な要素を含む。評価はレポートなどで行う。

## ４．使用教科書、参考書等

教科書は指定せず、各教員が資料または文献を配布する。

【参考図書】

1) The practice of nursing research : appraisal, synthesis, and generation of evidence
Susan K. Grove, Nancy Burns, Jennifer Gray, Elsevier/Saunders, c2013, 7th ed
2) Nursing research : generating and assessing evidence for nursing practice
Denise F. Polit, Cheryl Tatano Beck, Wolters Kluwer Health/Lippincott Williams & Wilkins, c2012 9th ed

5．教育内容

| 回 | 月日<br>(時限) | 内　　容 | 講師 |
|---|---|---|---|
| 1 | 5月12日<br>16：15-19:30 | 看護学研究方法の概説　・看護学研究における研究倫理 | 内田 |
| 2 | | 看護学研究におけるアクションリサーチの意義 | 内田 |
| 3 | 5月19日<br>18:00-19:30 | 形態学及び細胞生物学的研究方法<br>－電子顕微鏡観察法及び免疫組織学的研究法－ | 橋本 |
| 4 | 5月26日<br>18:00-19:30 | 分子生物学的研究方法<br>－医学的進歩における最新の分子生物学的アプローチ－ | 橋本 |
| 5 | 6月 2日<br>18:00-19:30 | 現象学・解釈学的アプローチの概要と特徴 | 原 |
| 6 | 6月 9日<br>18:00-19:30 | 看護学研究における知的財産と利益相反 | 中村 |
| 7 | 6月16日<br>18:00-19:30 | 英語論文の読解法と作成法 | 橋本 |
| 8 | 6月23日<br>18:00-19:30 | グラウンデッドセオリーの概要と特徴 | 原 |
| 9 | 6月30日<br>18:00-19:30 | 国際学会におけるプレゼンテーション(Oral/Poster)法 | 原 |
| 10 | 7月 7日<br>18:00-19:30 | 生理学的研究方法<br>－最新の医学・生理学の知見と研究方法－国際学会におけるプレゼンテーション(Oral/Poster)法 | 小林 |
| 11 | 7月 14日<br>18:00-19:30 | 薬理学的研究方法の概説英語論文の読解法と作成法 | 小林 |
| 12 | 7月 21日<br>16:15-17:45 | 精神・心理学的アプローチの特徴と進め方 | 稲垣 |
| 13 | **7月28日<br>(未定)<br>松江ｷｬﾝﾊﾟｽ** | 古典的エスノグラフィー、批判的エスノグラフィーの特徴と進め方 | 出口 |
| 14 | | ポストモダン・ポスト構造主義のエスノグラフィーの特徴と進め方 | 出口 |
| 15 | 8月 4日<br>16:15-17:45 | 精神・心理的発達のアセスメントツール開発方法の概説 | 稲垣 |

・講義は、原則として　金曜日 18:00～19:30　演習室で行います。
・7月28日の13回、14回は松江キャンパスで行います。時間は後日お知らせします。
・講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。
・予備日：8/5

# 超高齢看護学研究演習
## Research Seminar on Nursing in Super Aged Society

開講年次：1年次（通年）　単位数：2単位

| | |
|---|---|
| 原　祥子：地域･老年看護学講座教授 | 内田宏美：基礎看護学講座教授 |
| 小笹美子：地域･老年看護学講座教授 | 福田誠司：臨床看護学講座教授 |
| 橋本龍樹：臨床看護学講座教授 | 小林裕太：特任教授 |
| 出口　顯：法文学部社会文化学科教授 | 稲垣卓司：教育学部心理･発達臨床講座教授 |
| 多田敏子：特任教授 | 加藤基子：特任教授 |
| 倉鋪桂子：特任教授 | 小林祥泰：特任教授 |
| 塩飽邦憲：特任教授 | 津本優子：基礎看護学講座教授 |
| 福間美紀：基礎看護学講座准教授 | 嘉数直樹：環境予防医学准教授 |
| 小黒浩明：医学部附属病院神経内科講師 | |

１．科目の教育方針

「超高齢看護学」は、これまで培ってきた高齢看護学や健康長寿を支援するヘルスプロモーションの専門的取り組み等による知見を基盤として、新たに構築しようとする専門分野である。そのため、多角的な文献の分析はもとより、人々の生活の場で生成される健康課題の中から、超高齢看護学が取り組むべき研究課題を予見していくことが重要となる。したがって、本演習では高齢者へのケアを実践している場でのフィールドワークを重視した内容とする。また、国際的視野の涵養とともに、課題の国際的な意義を検討するために、島根大学協定校での研修等を組み込む。

以上の方針に基づき、自己の研究的関心に即した多様なフィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題との関連から自己の研究課題に取り組むことの意義を明確にし、超高齢社会における様々な健康課題の解決に貢献し得る、新たな看護ケア方法や看護実践モデル・理論の開発並びに健康長寿を支える新たなケアシステムの開発を目指した研究アプローチを追究する。

２．教育目標

１）参加型看護研究及び行動モデルとその適用について理解できる。

２）フィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題を確認し、超高齢看護にかかる健康課題を明確にすることができる。

３）フィールドワークの成果とプロセスをまとめて、適切に発表できる。

４）超高齢看護にかかる健康課題と自己の研究的関心を融合させ、超高齢看護学の構築に寄与し得る研究課題を焦点化することができる。

５）自己の研究課題に対応した研究デザインを定め、適切な倫理的配慮のうえで研究を遂行するための方法、分析方法を探索し、論理的一貫性のある研究計画を検討できる。

３．教育の方法、進め方、評価等

１）2単位60時間の通年科目として、演習とフィールドワークにより展開する。

２）フィールドワークを経て研究計画の立案に至るプロセスを順当に辿れるよう、以下の流れで行う。

（１）前半の約1/3：フィールドワークを効果的に実施するための知識の習得と準備

（２）中盤の約1/3：フィールドワーク・まとめ

（３）後半の約1/3：博士論文で取り組む研究課題の明確化と研究計画の検討

３）フィールドワークの進め方

・フィールドワークは島根大学協定校とその所在地域及び島根大学医学部が研究フィールドとしている医学部附属病院、大田総合医育成センターや自治体・関係機関を中心に実施する。

・フィールドは学生が自己の研究的関心に即して選定し、そのフィールドと関係の深い教員の指導・支援の下でフィールドワークを実施する。

・準備したフィールド以外の場を学生自身が開拓して実施する場合は、指導教員（主研究指導教員・副研究指導教員・研究指導補助教員）が指導・支援を担当する。

４）フィールドワークの取り組み状況、プレゼンテーションの内容、討論への参加状況等により主研究指導教員が総合的に評価する。

４．使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

１）プラニー リィアムプットーン編（木原雅子，木原正弘訳）：現代の医学的研究方法－質的・量的方法、ミックスメソッド、EBP－，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2012.

２）John W. Creswell（操華子・森岡崇訳）：研究デザイン－質的・量的・そしてミックス法，日本看護協会出版会，2007.

３）安西祐一郎：問題解決の心理学，中央公論社，東京，1985.

４）Tosteson DC：New pathway in general medical education. New Eng J Med 322: 234-238, 1990.

５）佐藤隆博：構造学習法の入門，明治図書，東京，1996.

６）塩飽邦憲，他: 概念地図を用いた問題解決能力の教育評価，医学教育 34: 385-390, 2003.

７）Sundquist J, et al.：Neighborhood linking social capital as a predictor of psychiatric medication prescription in the elderly: a Swedish national cohort study. Journal of Psychiatric Research 55: 44-51, 2014.

5．教育内容

| 回 | 月/日<br>(時限) | 内　　　容 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/14<br>(9･10) | ガイダンス<br>学生の看護実践からの課題候補の抽出 | 原　祥子 |
| 2<br>3 | 4/21<br>(1･2)<br>(3･4) | 課題解決型研究の基礎的な知識と手法の理解と課題の明確化<br>・問題解決技法 Problem-solving method<br>・概念地図法 Concept mapping method | 塩飽邦憲 |
| 4 | 4/21<br>(5･6) | 健康信念モデル Health Belief Model などの行動モデルの超高齢看護学における適用可能性 | 小笹美子<br>塩飽邦憲 |
| 5 | 5/12<br>(11･12) | 参加型看護研究 Participatory nursing research の意義 | 内田宏美 |
| 6<br>7<br>8 | 5月 | フィールドワークの準備<br>・国内外のフィールドワークの場所と方法の決定<br>・活動計画の立案：目標の設定、具体的方法とスケジュール、活動計画の倫理性の検討、利用可能な資源（システム・人材を含む）等の検討 | 科目担当<br>全教員 |
| 9<br>10<br>11<br>12<br>13<br>14<br>15<br>16 | 6月<br>7月<br>8月 | フィールドワークの実施［対応教員］<br>・協定校での研修：ルンド大学（スウェーデン）［小林裕・塩飽］<br>・医学部附属病院及び関連病院［福田・小黒］<br>・大田総合医育成センター［橋本］<br>・大田市立病院包括ケア病棟［嘉数］<br>・老人看護 CNS が活動する松江市立病院、松江赤十字病院等［原］<br>・島根県内の自治体［小笹］<br>・島根大学疾病予知予防プロジェクト［福間］<br>・島根まめネット［津本］<br>・島根大学研究機構戦略的研究推進センター『萌芽研究部門』プロジェクト（工･看護･医･福祉の異分野融合研究）［原］<br>・島根県看護協会医療安全ネットワークを活用したアクションリサーチ［内田・津本］<br>・その他、適宜［稲垣・出口・多田・加藤・倉舗・小林祥］ | 科目担当<br>全教員 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 17<br>18 | 9/8(金)<br>13:00<br>～<br>18:00 | フィールドワーク型研究活動の成果発表 | 科目担当<br>全教員 |
| 19<br>20 | 10月 | ・自己の研究課題の明確化<br>・各種モデルを用いて設定した課題に即した仮説設定 | ※指導教員 |
| 21<br>22 | 11月 | ・研究課題に関する研究デザインの検討<br>・研究方法の検討 | ※指導教員 |
| 23<br>24<br>25<br>26 | 12月<br>1月 | ・データ分析方法の探索<br>・研究倫理の検討 | ※指導教員 |
| 27<br>28 | 2月 | 研究計画全体の構造化 | ※指導教員 |
| 29<br>30 | 3/9<br>(金)<br>13:00<br>～<br>18:00 | 研究計画の発表 | 科目担当<br>全教員 |

※指導教員の専門性、支援可能な分野、方法等についての詳細は、『超高齢看護学特別研究』のシラバスに記載している「５．研究指導教員と指導の概要」を参照のこと。

# 超高齢看護学特別研究
## Research on Nursing in Super Aged Society

開講年次：1～3年次（通年）　単位数：6単位

原　祥子：地域･老年看護学講座教授
小笹美子：地域･老年看護学講座教授
橋本龍樹：臨床看護学講座教授
出口　顯：法文学部社会文化学科教授
多田敏子：特任教授
倉鋪桂子：特任教授
塩飽邦憲：特任教授
福間美紀：基礎看護学講座准教授
小黒浩明：医学部附属病院神経内科講師
内田宏美：基礎看護学講座教授
福田誠司：臨床看護学講座教授
小林裕太：特任教授
稲垣卓司：教育学部心理･発達臨床講座教授
加藤基子：特任教授
小林祥泰：特任教授
津本優子：基礎看護学講座教授
嘉数直樹：環境予防医学准教授

１．科目の教育方針

超高齢社会における看護の質の向上並びに新たなケアシステムの開発を目指した研究活動を展開し、博士論文を作成する。

２．教育目標

１）特講・超高齢看護学研究演習の進行及び成果と連結させながら、超高齢社会における人々の健康課題解決に有用な研究計画を立案する。
２）研究計画に沿って研究活動を展開できる。
３）分析結果の妥当性を検証し、博士論文を作成する。

３．教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

・研究指導教員及び研究指導補助教員の多重支援体制をとり、その指導の下に研究を進める。
・多重支援体制は、主研究指導教員と副研究指導教員及び研究指導教員の専門分野や専門領域を補完する研究指導補助教員の３人体制とする。

| 目安 | 内　　　容 |
|---|---|
| １年次 | ・研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。 |
| ２年次 | ・研究計画に沿って、研究フィールド・協力者への適切な交渉と倫理的な手続きを行い、研究活動を展開する。 |
| ３年次 | ・収集したデータの分析を行い、結果の妥当性を検証したうえで、博士論文を作成する。 |

【評価】
研究プロセスへの取り組み状況、作成した研究計画書・論文により総合的に評価する。

4．使用テキスト、参考文献等
テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。
【参考文献】
1）APA（江藤裕之他訳）：APA 論文作成マニュアル，医学書院，2004.

5．研究指導教員と指導の概要

| 教員 | 指導の概要 |
|---|---|
| 原　祥子 | 認知症や運動器疾患など高齢者に多い疾病や加齢による様々な障がいに関わる専門的な看護を発展させるための新規性のある研究課題を選定し、関連する医・工分野と連携・融合したこれまでの研究を基に、新たな研究方法論へのチャレンジを検討しながら、目的に即した適切な研究方法を選択・工夫し、先進的な看護学を拓く論文を作成できるよう指導する。 |
| 内田宏美 | 超高齢社会における保健医療・介護の質と安全の向上に資するシステム開発や人材育成システムの開発に関連する研究課題を多面的に探索し、これまで研究を行ってきた社会学や経営学などの関連分野の知見と高齢看護学の融合による研究方法を探索・選択・応用して、目的に即した適切な研究方法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう指導する。 |
| 小笹美子 | 人々の生活や環境を包括的に捉え、中山間地の特性に応じた健康生活の支援方法を開発するための研究課題と、コミュニティが弱体化している超高齢地域における災害看護の課題に対して、行政機関や医療機関との連携と協働による研究方法を選択し、目的に即した研究方法の検討、データ収集、分析、論文作成ができるよう指導する。 |
| 福田誠司 | 高齢期の生活に多大な影響を及ぼす健康問題の一つである白血病を含む血液疾患と先天性代謝異常の専門家として、分子生物学分野における基礎医学的研究成果と豊富な臨床経験を基に、新規性のある研究課題を選定し、臨床医学的手法と基礎医学的手法を融合させた研究方法を選択・工夫し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。 |
| 橋本龍樹 | 地域の実情に応じた、科学的根拠に基づく健康指導・健康管理の方法の開発や効果の検証をするための研究課題を選定し、動物実験による発生工学的手法や分子生物学解析、生化学データの解析や病理学的解析等の医学的研究方法を検討しながら、目的に即した研究方法を選択・工夫し、多角的な視点からデータ収集・解析を行い、論文作成の指導を行う。 |

| | |
|---|---|
| 小林裕太 | 超高齢社会における人々の健康課題を環境との関連から捉え、健康を支援する環境づくりや健康長寿に寄与し得る研究課題について生理学的研究方法や薬理学的研究方法を選択し、精度の高いデータ収集・解析、論文作成の指導を行う。 |
| 出口　顯 | 超高齢社会における人々の健康課題や健康長寿を支える先端医療をめぐる文化的対応の中に研究課題を求め、生命倫理に関する諸問題を文化人類学の切り口で分析した研究の実績を生かし、適切と判断されるテーマについて、エスノグラフィーを行ううえでの倫理と計画的なエスノグラフィー研究を行うための検討､研究計画書の作成、精度の高いデータ収集と分析、論文作成ができるよう指導する。 |
| 稲垣卓司 | 超高齢社会が直面している人間関係の希薄によって発生するライフステージに応じた精神・心理的課題の中から、児童から高齢者にわたる精神科医としての診療・研究を基に、支援方法を開発するための研究課題を選定し、精神医学的方法論も検討しながら目的に即した精度の高い研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。 |
| 多田敏子 | 高齢者のストレングスの概念を取り入れた生活習慣病予防や介護予防、高齢者の就業・社会交流とQOL、在宅高齢者のサポート授受、介護家族のQOL､地域の特性を捉えた共助力育成や被災者の生活支援など、超高齢期の健康生活を見据えた研究課題に対して、公衆衛生学との連携と協働による研究方法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう指導する。 |
| 加藤基子 | 在宅や介護施設で療養する脳血管障害者や要介護高齢者及びその介護者の健康問題の査定や支援に関わる専門的な看護の発展に資する研究課題、超高齢社会における地域包括ケアの担い手となる看護系大学生の看護実践能力育成のための教育方法の開発に資する研究課題に対して、これまでの研究成果を基に、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。 |
| 倉鋪桂子 | 高齢期の健康生活に大きな影響を及ぼすがん・脳血管疾患・脊髄損傷の高齢者及び家族への看護、東・東南アジアの高齢者施設における看護及び介護職員のケア認識の国際比較等の研究課題について、目的に即した精度の高い研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。 |
| 小林祥泰 | 超高齢社会における主要な健康問題である脳卒中や認知症、難病等の患者とその家族に対する看護、及び、疾病予防に関連した研究課題について、脳卒中の専門医としての医学的な専門知識を基に、新規性のある研究課題を選定し、頭部の画像診断を活用した臨床医学手法と脳血流量の測定を含む生理学的検査を用いた基礎医学的手法を融合させた研究方法を選択・工夫し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。 |

| | |
|---|---|
| 塩飽邦憲 | 超高齢社会における健康問題の中核をなす肥満、高脂血症、高血圧等の生活習慣病を予防し、人々が健康に老いるために、医療・保健行政・福祉のネットワークによる地域住民主体の健康作りの支援に関わる看護の発展に資する研究課題に対して、これまでの研究成果、および、フィールドワークの成果を基に、主に、疫学的手法を用いたデータの収集・解析・論文作成の指導を行う。 |
| 津本優子 | 地域包括ケア等のネットワークにおける看護情報システムの開発や情報リテラシーを高めるための教育システムの開発に関する研究課題及び安全な健康長寿社会の実現に寄与する観点からの研究課題に対して、疫学統計法・情報学の知見を活用して、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。 |
| 福間美紀 | 中山間地における要支援高齢者や虚弱高齢者の支援、疾病予知予防の観点からの健康支援システムの開発に関する研究課題に対して、地域の医療及び保健機関と連携して行ってきた研究を踏まえ、主に疫学的方法やアクションリサーチを用いて、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。 |
| 嘉数直樹 | 超高齢社会における人々の健康課題を環境との関連から捉え、科学的根拠に基づく健康指導・健康管理の方法の開発や効果の検証を行うための研究課題を選定し、動物実験による遺伝学的手法や分子生物学解析等の医学的研究方法を検討しながら、目的に即した研究方法を選択・工夫し、多角的な視点からデータ収集・解析を行い、論文作成の指導を行う。 |
| 小黒浩明 | 超高齢社会における主要な健康問題である脳卒中、認知症、パーキンソン病等に関連した研究課題について、脳神経系の加齢性変化を踏まえた老年医学の観点からの検討を加えるとともに、臨床医学や医工連携による研究方法を探索して目的に即した適切な研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。 |

# 地域がん治療学

Local cancer therapeutics

単位数：２単位

○礒部　威　教授：呼吸器・臨床腫瘍学　　並河　徹　教授：病態病理学
木下芳一　教授：内科学第二　　田島義証　教授：消化器・総合外科学
齊藤洋司　教授：麻酔科学　　鈴宮淳司　教授：腫瘍ｾﾝﾀｰ/腫瘍・血液内科
礒村　実　講師：病理病態学

## １．科目の教育方針

地域がん治療学においては、地域に多い高齢者のがん診療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的ながん診療の専門家を育成する。がんの診療の基本であるがんの診断、機能評価、患者コミュニケーション、治療適応の判断、緩和ケア、包括的な患者マネージメントについて学び、切れ目のないがん医療を医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなど多職種によるチームオンコロジーの構築と展開について習得することを目標とする。また、プログラムはがん治療認定医機構ならびに日本臨床腫瘍学会のカリキュラムに準じて横断的、段階的に作成されており、本コースを履修することでがん治療に関する認定医、専門医などの資格試験に求められる知識を確保することが可能となる。

## ２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）がん診療の実践に必要な臨床的知識を獲得する。
２）がん診療において必要とされる包括的なマネージメントについて理解する。
３）がん治療認定医機構の認定医ならびに日本臨床腫瘍学会認定のがん薬物療法専門医資格試験の受験に必要なレベルに到達する。
４）地域がん診療に必要な地域医療学、病診連携について学ぶ

行動目標　specific behavioral objectives

１）がんに関する基礎医学的知見を説明できる。
２）がんの心理社会的側面・倫理的側面を説明できる。
３）がんの治療に関する基本原理を理解し、説明できる。
４）地域がん診療に必要な地域医療学、病診連携が説明できる。

## ３．教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

## ４．成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5．使用テキスト・参考文献

【参考図書】

1）日本臨床腫瘍学会編集による「新臨床腫瘍学　改訂第3版」、南江堂、2012.

2）佐藤隆美：What's New in Oncology がん治療エッセンシャルガイド改訂第 2 版、南山堂、2012.

3）国立がん研究センター内科レジデント編：がん診療レジデントマニュアル第 6 版、医学書院、2013.

※他、適宜文献、資料などを配布する。

6．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担　当 |
|---|---|---|
| 1 | 山陰地区のがん医療の現状と地域がん対策 | 礒部　威 |
| 2 | 病診連携と ICT | 礒部　威 |
| 3 | 病理学、臨床検査医学、分子生物学 | 並河　徹 |
| 4 | 家族性腫瘍、遺伝子診断 | 磯村　実 |
| 5 | 消化器がん検診と診断法 | 木下芳一 |
| 6 | 高齢者の消化器がん | 木下芳一 |
| 7 | 消化器がんの手術適応 | 田島義証 |
| 8 | 地域におけるがん薬物療法（1）外来化学療法 | 鈴宮淳司 |
| 9 | 地域におけるがん薬物療法（2）地域連携パス | 鈴宮淳司 |
| 10 | 副作用対策（1）血液毒性 | 礒部　威 |
| 11 | 副作用対策（2）非血液毒性 | 礒部　威 |
| 12 | 終末期ケア（1）疼痛管理 | 齊藤洋司 |
| 13 | 終末期ケア（2）コミュニケーションスキル | 齊藤洋司 |
| 14 | 演習（模擬試験） | 礒部　威 |
| 15 | 総括 | 礒部　威 |

# がん医療社会学

Cancer medical sociology

単位数：２単位

○礒部　威　教授：呼吸器・臨床腫瘍学
　椎名浩昭　教授：泌尿器科学
　関根浄治　教授：歯科口腔外科学
　熊倉俊一　教授：地域医療教育学
　木下芳一　教授：内科学第二
　猪俣泰典　教授：放射線腫瘍学
　齋藤洋司　教授：麻酔科学

## １．科目の教育方針

がん医療社会学においては、地域に多い高齢者や合併症を有する患者のがん治療学として、 最適ながん医療が提供できる医療従事者を育成する。がん患者がその居住する地域にかかわらず、科学的知見に基づく適切ながん医療を受けることができるようにすること、がん患者が置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重して治療方法等が選択されるという、がん対策基本法の基本理念を理解し、患者のＱＯＬ (生活の質) や副作用対策についての臨床研究、医療費に関するがん医療社会学、地域での終末期医療や緩和医療学に関して学ぶ。がん診療における「対話」の重要性を理解し、地域医療においての多職種によるチーム医療の重要性と実際を学ぶ。

## ２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

地域に多いunfit populationと呼ばれる、高齢者や合併症を有するがん患者に対して、診断、病状説明、最適な治療について対話ができる医療従事者を育成することを目標とする。

行動目標　specific behavioral objectives

１）がん患者のＱＯＬ(生活の質)について理解する。
２）各臓器別のがん腫について診断、治療戦略を学ぶ。
３）高齢者や合併症を有するがん患者への対応を学ぶ。
４）がん診療におけるチーム医療について学ぶ。
５）がん診療における対話の重要性を理解する。

## ３．教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

## ４．成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

## ５．使用テキスト・参考文献

※適宜文献、資料などを配布する。

６．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担　当 |
| --- | --- | --- |
| 1 | がん医療における対話の重要性 | 礒部　威 |
| 2 | 地域がん医療と地域医療医の育成 | 熊倉俊一 |
| 3 | ＩＣＴを用いた緩和ケア研修 | 齊藤洋司 |
| 4 | 放射線治療の適応 | 猪俣泰典 |
| 5 | 口腔がんと口腔ケア | 関根浄治 |
| 6 | 口腔がんの現状と地域連携 | 関根浄治 |
| 7 | 泌尿器がんの現状と地域連携 | 椎名浩昭 |
| 8 | 消化器がんの現状と地域連携 | 木下芳一 |
| 9 | ＱＯＬ（生活の質）評価 | 礒部　威 |
| １０ | 地域がん医療とチーム医療 | 礒部　威 |
| １１ | 地域がん医療における看護師の役割 | 礒部　威 |
| １２ | 地域がん医療における薬剤師の役割 | 礒部　威 |
| １３ | ＩＣＴを用いた地域がんチーム医療 | 礒部　威 |
| １４ | 演習（模擬試験） | 礒部　威 |
| １５ | 総括 | 礒部　威 |

# 緩和ケア学

Pallaitive Care

単位数：２単位

○齊藤洋司　　教授：麻酔科学
　堀口　淳　　教授：精神医学
　猪俣泰典　　教授：放射線腫瘍学

１．科目の教育方針

生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族を正しく理解し、早期より痛みや、身体的、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を包括的に評価し、アプローチするための理論と方法について学習する。

がんがもたらす身体症状の病態・発現メカニズムを理解し、薬物的・非薬物的アプローチを適切に活用しながら、症状を緩和するケアを提供する能力を高める。

精神的苦悩のアセスメントと介入方法、コミュニケーション方法を学び、精神的苦悩を緩和するための技法を学ぶ。

２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）がん医療における緩和ケアの意義、役割を理解する。
２）全人的痛みの評価、緩和を学ぶ。
３）がんの痛みの特徴と治療を学ぶ。

行動目標　specific behavioral objectives

１）緩和ケアの意義を説明できる。
２）早期からの緩和ケアを行うことができる。
３）全人的な痛みを４側面から評価できる。
４）がんの痛みの機序を説明できる。
５）非がん患者の緩和ケアの適応について説明できる。
６）精神的痛みの特徴と緩和について説明できる。
７）スピリチュアルな痛みの特徴と緩和について説明できる。
８）緩和的放射線治療の特徴について説明できる。

３．教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

４．成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

５．使用テキスト・参考文献

１）日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員会編集：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版、金原出版、2014.

２）Geoffey Hanks,Nathan I. Cherny : Oxford Textbook of Palliative Medicine FOURTH EDITION　2011.

※他、適宜文献、資料などを配布する。

６．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担　当 |
|---|---|---|
| 1 | がんの痛みの特徴と機序 | 齊藤洋司 |
| 2 | 神経障害性痛の病態生理 | 齊藤洋司 |
| 3 | 内臓痛の特徴と機序 | 齊藤洋司 |
| 4 | オピオイドの作用機序 | 齊藤洋司 |
| 5 | 呼吸困難とオピオイド | 齊藤洋司 |
| 6 | 全人的痛みと緩和ケア | 齊藤洋司 |
| 7 | 主な身体的苦痛と緩和ケア | 齊藤洋司 |
| 8 | がん性痛の薬物療法 | 齊藤洋司 |
| 9 | がん性痛の神経ブロック療法 | 齊藤洋司 |
| １０ | 緩和ケアと多職種協働 | 齊藤洋司 |
| １１ | 地域連携と療養の場 | 齊藤洋司 |
| １２ | がん患者の不安・抑うつ | 堀口　淳 |
| １３ | がん医療におけるコミュニケーション | 堀口　淳 |
| １４ | 緩和ケアにおいて放射線治療の果たす役割 | 猪俣泰典 |
| １５ | 緩和ケアにおける放射線治療の実際 | 猪俣泰典 |

# 環境医学Ⅰ
## Environmental Medicine Ⅰ

単位数：２単位

〇神田秀幸　教授：環境保健医学

### １．科目の教育方針

主体と環境との相互作用という観点から、様々な健康問題、疾病の原因究明とその予防に取り組む研究について学習する。研究の方法は「人間レベル」を中心に、生活環境や社会文化環境を含め、人の取り巻く環境と医学医療との関連を検討する。様々な環境で起こる問題を解決するためには、歴史的背景を学習し、そこから得られた技術や経験を理解するとともに、社会集団として国際的あるいは社会的なルール・制度・仕組みを把握することも重要である。問題解決とリスク低減のために、マクロ的視野および環境共生の枠組みに立った展開ができることを学習の狙いとする。環境医学Ⅰでは総論的な内容を主とし、概念や枠組み、社会制度等の理解を重視する。

### ２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）環境と健康の関連性からとらえる研究テーマを開発する。
２）生活習慣・生活習慣の健康への影響を評価する方法論を理解する。
３）労働環境の実際的応用研究を理解する。

行動目標　specific behavioral objectives

１）疫学研究について説明できる。
２）生活環境と健康リスクについて説明できる。
３）働くことと健康について理解できる。

### ３．教育の方法、進め方

担当教員による講義を主としながらも、発言や思考時間を設けた双方向型の授業展開を行う。また、テーマによっては、学生によるプレゼンテーションやグループ討論を行い、学生自身が主体的に考える機会を設け、問題解決型思考を養う学習を行う。

### ４．成績評価の方法

学生によるプレゼンテーションの内容や表現、グループ討論への取り組み状況、課題レポート等を用いて、総合的に行動目標の達成度を評価する。

### ５．使用テキスト・参考文献

１）厚生労働統計協会編：国民衛生の動向、厚生労働統計協会、2014/2015
２）JM Last 編：疫学辞典、日本公衆衛生協会、2000.
３）KJ Rothman : Modern Epidemiology third Edition, Lippincott Williams&Wilkins, 2008.
４）B.ラマッツーニ著、松藤元訳：働く人々の病気、北海道大学出版会、1980.
５）和田攻監修：産業保健マニュアル（第６版）、南山堂 2013.
※他、適宜文献、資料などを配布する。

6．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担　当 |
|---|---|---|
| 1 | 疫学　総論 | 神田秀幸 |
| 2 | 疫学方法論（1）　記述疫学 | 神田秀幸 |
| 3 | 疫学方法論（2）　分析疫学（症例対照研究） | 神田秀幸 |
| 4 | 疫学方法論（3）　分析疫学（コホート研究） | 神田秀幸 |
| 5 | 疫学方法論（4）　介入研究 | 神田秀幸 |
| 6 | 疫学方法論（5）　スクリーニング | 神田秀幸 |
| 7 | 疫学方法論（6）　臨床疫学 | 神田秀幸 |
| 8 | 生活環境と健康（1）空気・水・騒音・気圧と健康 | 神田秀幸 |
| 9 | 生活環境と健康（2）放射線と健康 | 神田秀幸 |
| 10 | 文化環境と健康 | 神田秀幸 |
| 11 | 社会環境と健康（1）社会制度における保健医療 | 神田秀幸 |
| 12 | 社会環境と健康（2）保健医療政策と人々の健康 | 神田秀幸 |
| 13 | 労働環境と健康（1）労働衛生管理体制と働く人の健康 | 神田秀幸 |
| 14 | 労働環境と健康（2）産業中毒とその対策 | 神田秀幸 |
| 15 | 労働環境と健康（3）産業医・産業保健スタッフの役割 | 神田秀幸 |

# 環境医学Ⅱ
## Environmental Medicine Ⅱ

単位数：２単位

○神田秀幸　教授：環境保健医学
　嘉数直樹　准教授：環境予防医学
　山﨑雅之　准教授：人間科学部身体活動・健康科学コース

１．科目の教育方針

技術化、情報化が著しく進歩した反面、環境問題やライフスタイルの変容、高齢化など種々の問題を抱える現代社会において、身体的・社会的・精神的な面での不適応から様々な健康問題が生じてきている。これら人間の健康に関わる諸問題を“生涯を通じての健康”を目指した健康教育の理念や方法論を確立していくことが求められる。また健康に関わる諸事項について周辺領域を含めて学際的知識と実践技術を体系的に習得し、現代生活に潜む健康課題に対する問題解決能力を養うことを学習する。環境医学Ⅱでは各論的な内容を主とし、各課題に対して周辺関連領域の知識を含めた、深く掘り下げた理解と議論を展開する。

２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）自然・生活・社会環境と健康との関連を理解する。
２）環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈 context から理解する。
３）健康を支援する環境づくりや環境に順応した人間行動を理解する。
４）健康課題に対応する人類生態学，政策科学の概念と方法を理解する。

行動目標　specific behavioral objectives

１）自然・生活・社会環境と健康との関連を列記することができる。
２）環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈 context から例示することができる。
３）健康を支援する環境づくりの要件を述べることができる。
４）地球環境問題における環境に順応した人間行動を例示することができる。
５）人類生態学，政策科学の概念と方法の特徴を述べることができる。

３．教育の方法、進め方

担当教員による講義を主としながらも、発言や思考時間を設けた双方向型の授業展開を行う。また、テーマによっては、学生によるプレゼンテーションやグループ討論を行い、学生自身が主体的に考える機会を設け、問題解決型思考を養う学習を行う。

４．成績評価の方法

学生によるプレゼンテーションの内容や表現、グループ討論への取り組み状況、課題レポート等を用いて、総合的に行動目標の達成度を評価する。

5．使用テキスト・参考文献

1）Mary Dobson 著、小林力訳：Disease 人類を襲った３０の病魔、医学書院、2010.

2）日本禁煙学会編：禁煙学改訂 2 版、南山堂、2010.

※他、講義ごとに資料を配布する。

6．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担　当 |
|---|---|---|
| 1 | 環境医学　総論 | 神田秀幸 |
| 2 | 環境医学各論（１）　生活と健康 | 嘉数直樹 |
| 3 | 環境医学各論（２）　社会と健康 | 神田秀幸 |
| 4 | 環境医学各論（３）　健康への自然と社会の相互作用 | 山﨑雅之 |
| 5 | 地球環境問題（１）　地球温暖化 | 嘉数直樹 |
| 6 | 地球環境問題（２）　化学物質による環境汚染 | 嘉数直樹 |
| 7 | 地球環境問題（３）　PM2.5 による大気汚染 | 嘉数直樹 |
| 8 | 地球環境問題（４）　生物多様性と生態系の破壊 | 山﨑雅之 |
| 9 | 社会環境問題（１）　社会経済格差 | 山﨑雅之 |
| １０ | 社会環境問題（２）　飲酒・喫煙 | 神田秀幸 |
| １１ | 社会環境問題（３）　生活習慣 | 山﨑雅之 |
| １２ | 社会環境問題（４）　職業ストレスとメンタルヘルス不全 | 嘉数直樹 |
| １３ | 人類生態学 | 山﨑雅之 |
| １４ | 健康政策科学 | 山﨑雅之 |
| １５ | 環境による発がん | 嘉数直樹 |

# 医学・医療情報学Ⅰ

Medical Informatics　Ⅰ

単位数：２単位

○津本周作　教　授：医療情報学
　平野章二　准教授：医療情報学
　河村敏彦　准教授：附属病院医療情報部

１．科目の教育方針

医学・医療情報学とは、情報学の手法を広く取り入れて、基礎・臨床医学および医療に役立てることを目的とした学問である。本講義では、現在、情報学ではどのような先端的な研究がなされているかという基礎的な知識を与え、情報学の基本を習得させるとともに、それが今後どのように医療分野へ展開していくかということを展望させることを目的としている。

２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）医療情報システムについての基礎知識を学ぶ。
２）情報セキュリティの基礎知識を学ぶ。
３）情報学の最近の研究について学ぶ。
４）EBM の基礎技術である生物統計学について学ぶ。

行動目標　specific behavioral objectives

１）病院情報システムの基本的な構成について説明できる。
２）インターネット上でのセキュリティについての基本的考え方を説明できる。
３）病院安全に要求される情報通信技術の基礎について説明できる。
４）情報学の基本的な考え方を説明できる。
５）生物統計学の手法を使って、データ解析できる。

３．教育の方法、進め方

講義およびソフトウェアを使った実習で進める。

４．成績評価の方法

課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

５．使用テキスト・参考文献

１) Shortliffe, E. and Cimino, J.　Biomedical Informatics 4th Edition, Springer, 2014.
２) Dawson, B. and Trapp, R. Basic & Clinical Biostatistics: 4th Edition, McGraw-Hill Medical, 2004.

※適宜、資料を配布する。

６．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担　当 |
| --- | --- | --- |
| 1 | 病院情報システム | 津本周作 |
| 2 | 診療情報の電子化 | 津本周作 |
| 3 | 情報ネットワーク | 平野章二 |
| 4 | 個人情報保護とPmark | 平野章二 |
| 5 | 情報セキュリティ | 平野章二 |
| 6 | サービスコンピューティング | 津本周作 |
| 7 | データマイニング | 津本周作 |
| 8 | 検定論 | 河村敏彦 |
| 9 | 実験計画法の基本的な考え方について | 河村敏彦 |
| １０ | 分散分析 | 河村敏彦 |
| １１ | ノンパラメトリック統計 | 河村敏彦 |
| １２ | 多重比較 | 平野章二 |
| １３ | 生存率解析 | 平野章二 |
| １４ | 判別分析 | 河村敏彦 |
| １５ | 品質管理 | 河村敏彦 |

# 地域医療学Ⅰ
Community Medicine Ⅰ

単位数：２単位

○熊倉俊一　教授・地域医療教育学
　石橋　豊　教授・総合医療学
神田秀幸　教授・環境保健医学
廣瀬昌博　教授・地域医療政策学

## １．科目の教育方針

地域医療学とは、高齢化・過疎化といった地域医療の現状を見据えて、大学病院をはじめとした拠点病院と一次、二次医療機関および福祉関連施設が密に連絡しあって地域医療を展開、その展開にどのようなアプローチが存在するかを多角的にとらえることを目的とした学問である。本講義では、地域医療学の現状をとらえつつ、従来からのアプローチから先端的な研究にまでを網羅し、それが今後どのように地域医療として展開していくかということを展望させることを目的としている。

## ２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）地域医療の現状を学ぶ。
２）地域福祉の現状を学ぶ。
３）地域医療に必要な疫学的アプローチについて学ぶ。
４）地域医療に求められる医療人材の役割について学ぶ。
５）地域医療に関する研究方法について学ぶ。

行動目標　specific behavioral objectives

１）地域医療の現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
２）地域福祉の現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
３）疫学的アプローチを使って地域保健指標の評価ができる。
４）地域医療における各種医療機関の役割について説明できる。
５）地域医療を対象とした研究方法に関する基本的知識について説明できる。
６）地域医療を対象とした研究について説明できる。

## ３．教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

## ４．成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

## ５．使用テキスト・参考文献

１）World Health Organization. Increasing access to health workers in remote and rural areas through improved retention. Global policy recommendations. 2010. [http://www.who.int/ entity/ hrh/ retention/guidelines/en/]
２）Organization for Economic Cooperation and Development. OECD Factbook 2014. Economic,Environmental and Social Statistics. 2014. [http://www.oecd-ilibrary.org/economics/ oecd- factbook- 2014_factbook-2014-en]

3）自治医科大学監修：地域医療テキスト、医学書院、2009.
4）John A.Dent・Ronald M. Harden 著、鈴木康之・錦織宏監訳　相野由紀子・鈴木なおみ・足立拓也・吉村仁志編集：医学教育の理論と実践、篠原出版新社、2010.
※その他、講義ごとに資料を配布する。

## 6．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担　当 |
|---|---|---|
| 1 | 地域医療学総論 | 熊倉俊一 |
| 2 | 世界の地域医療の現状と課題 | 熊倉俊一 |
| 3 | 島根県における地域医療の現状と将来展望 | 熊倉俊一 |
| 4 | 地域医療を担う人材育成 | 熊倉俊一 |
| 5 | 地域保健医療と疫学（1）地域診断の基礎 | 神田秀幸 |
| 6 | 地域保健医療と疫学（2）地域診断の応用 | 神田秀幸 |
| 7 | 地域保健医療と疫学（3）地域診断を活用した地域医療の展開 | 神田秀幸 |
| 8 | 地域保健活動の実際 | 神田秀幸 |
| 9 | 地域医療と町創り | 石橋　豊 |
| 10 | 地域医療における病院、開業医、診療所の役割 | 石橋　豊 |
| 11 | 地域医療における病病連携と病診連携 | 石橋　豊 |
| 12 | 地域医療における保健・医療・福祉連携 | 石橋　豊 |
| 13 | 地域医療に関する研究とその方法 | 廣瀬昌博 |
| 14 | ビッグデータを用いた地域医療の考え方 | 廣瀬昌博 |
| 15 | 地域医療に関する研究と医療倫理 | 廣瀬昌博 |

# 地域医療学Ⅱ
## Community Medicine Ⅱ

単位数：２単位

〇津本周作　教　授：医療情報学　　　　　平野章二　准教授：医療情報学
　河村敏彦　准教授：附属病院医療情報部

１．科目の教育方針

地域医療学とは、高齢化・過疎化といった地域医療の現状を見据えて、大学病院をはじめとした拠点病院と一次、二次医療機関および福祉関連施設が密に連絡しあって地域医療を展開、その展開にどのようなアプローチが存在するかを多角的にとらえることを目的とした学問である。本講義では、地域医療学の現状を情報通信技術の観点からとらえた情報学的アプローチについて概説する。

２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）情報セキュリティの現状を学ぶ。
２）地域医療に必要な情報通信技術について学ぶ。
３）地域医療に関わる情報学の基礎について学ぶ。

行動目標　specific behavioral objectives

１）情報通信技術の現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
２）情報セキュリティの現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
３）遠隔医療に関わる情報学の基本的知識について説明できる。

３．教育の方法、進め方

講義およびソフトウェアを使ったデモ、学生によるプレゼンテーションで進める。

４．成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

５．使用テキスト・参考文献

【参考文献】

１）Fong, B. Fong, A.C.M. and Li, C.K.  Telemedicine Technologies: Information Technologies in Medicine and Telehealth Wiley, 2010.
２）Latifi, R. Current Principles and Practices of Telemedicine and e-Health., IOS Press, 2008.
３）Levin, R.I., Rubin, D.S. Statistics for Management, Pearson Education Limited, 2013.

※適宜、資料を配布する。

6．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担　当 |
|---|---|---|
| 1 | 医療の分担と遠隔医療 | 津本周作 |
| 2 | 電子カルテを基盤とする地域医療連携ネットワーク | 津本周作 |
| 3 | 品質管理 | 河村敏彦 |
| 4 | 情報学的なマネジメント技術：情報の可視化 | 河村敏彦 |
| 5 | 情報学的なマネジメント技術：データマイニング | 河村敏彦 |
| 6 | 情報学的なマネジメント技術：統計モデリング | 河村敏彦 |
| 7 | 情報学的なマネジメント技術：タグチメソッド | 河村敏彦 |
| 8 | 医療情報システム概論 | 津本周作 |
| 9 | 診療情報管理 | 津本周作 |
| １０ | 診療情報の二次利用 | 津本周作 |
| １１ | クラウドコンピューティング | 平野章二 |
| １２ | 医療情報交換のための標準規約 | 平野章二 |
| １３ | 標準化構造化医療記録情報交換規約 | 平野章二 |
| １４ | 医療情報交換に必要なネットワークの仕様 | 平野章二 |
| １５ | 医療情報交換に必要なネットワークの実践 | 平野章二 |

# 総合診療学Ⅰ

general medicine/family medicine Ⅰ

単位数：２単位

○熊倉俊一　教授・地域医療教育学　　　石橋　　豊　教授・総合医療学
廣瀬昌博　教授・地域医療政策学

## １．科目の教育方針

地域医療における指導者、特に、総合診療を担う指導者として活躍するために、地域や我が国の医療が直面する様々な課題を理解して解決策を展望できる能力を修得するとともに、指導者として必要な教育技法や国際的視野を涵養するための方策等について学ぶ。また、生活習慣病や加齢と動脈硬化、がん、認知症など地域の医療に密接に関連する疾患についての基礎・臨床研究や疫学研究、または、コホート研究等を遂行していくために必要な専門的知識を修得し、自立して研究活動を実践できる能力を身につける。

## ２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）地域医療が抱える課題に対して適切に対処できるようになるために、島根県および日本の医療資源や医療経済、行政、介護・福祉等についての知識を修得する。
２）医療における国際的視野を涵養するために、海外の医療の現状を学ぶ。
３）地域における患者・医師の良好な関係を構築し、コミュニケーションを円滑に実施できるようになるために、地域医療の体験を通じて基本的な技能と態度を身につける。
４）信頼される地域医療を提供していくことができるようになるために、医の倫理・プロフェッショナリズムを身につける。
５）将来指導者としての役割を担うことができるようになるために、シミュレータ教育を含めた医学教育の知識と技能を修得する。
６）研究を適切に実施することができるようになるために、研究に関する倫理と研究者としての適切な姿勢を修得する。
７）研究を自立的に実施することができるようになるために、統計学と研究の遂行方法について修得する。

行動目標　specific behavioral objectives

１）解決すべき地域・総合医療の課題を説明できる。
２）地域・総合医療の課題に対する解決策を列挙できる。
３）海外と日本の医療の違いを概説できる。
４）研究における倫理と利益相反を説明できる。
５）自立的に研究活動を実践するために必要な事項を説明できる。
６）良好な患者・医師関係を構築することができる。
７）総合医療の担い手としての優れた倫理感を備えることができる。
８）教育技法を理解し、医療者の教育を実践できる。
９）優れた倫理感に基づいた研究を実践できる。

## ３．教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

## ４．成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

５．使用テキスト・参考文献

1）リチャード・クルーズ他：医療プロフェッショナリズム教育 、日本評論社、2012.

2）ロナルド・ハーデン他：医学教育の理論と実践、篠原出版新社、2010.

3）自治医科大学監修：地域医療テキスト、医学書院、2009.

4）World Health Organization. Increasing access to health workers in remote and rural areas through improved retention. Global policy recommendations. (2010) [http://www.who.int/ entity/ hrh/ retention/guidelines/en/]

5）Organization for Economic Cooperation and Development. OECD Factbook 2014. Economic,Environmental and Social Statistics. (2014) [http://www.oecd-ilibrary.org/economics/ oecd- factbook- 2014_factbook-2014-en]

※その他、講義ごとに資料を配布する。

６．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|---|---|---|
| 1 | 総合診療学総論 | 熊倉俊一 |
| 2 | 我が国・海外における総合医療の現状と課題 | 熊倉俊一 |
| 3 | Common disease；診断と治療・予防 | 熊倉俊一 |
| 4 | 生活習慣病（高血圧症・脂質異常症）；診断と治療・予防 | 熊倉俊一 |
| 5 | 生活習慣病（糖尿病・メタボリックシンドローム）；診断と治療・予防 | 熊倉俊一 |
| 6 | Common disease と生活習慣病；臨床研究のあり方について | 熊倉俊一 |
| 7 | がんと総合診療 | 熊倉俊一 |
| 8 | 地域における総合診療の役割と病病連携・病診連携 | 石橋　豊 |
| 9 | 総合診療医の育成プログラム | 石橋　豊 |
| １０ | 総合診療とリサーチ | 石橋　豊 |
| １１ | 総合診療と国際的視野の涵養 | 石橋　豊 |
| １２ | 総合医療に関する研究とその方法 | 廣瀬昌博 |
| １３ | 地域包括ケアにおける総合診療 | 廣瀬昌博 |
| １４ | 総合診療と医療倫理 | 廣瀬昌博 |
| １５ | ビッグデータを用いた総合医療の解析と評価 | 廣瀬昌博 |

# 総合診療学Ⅱ

general medicine/family medicineⅡ

単位数：２単位

○石橋　豊　教授：総合医療学　　　　廣瀬昌博　教授：地域医療政策学
熊倉俊一　教授：地域医療教育学

１．科目の教育方針

地域医療における指導者、特に、総合診療を担う指導者として活躍するために、地域や我が国の医療が直面する様々な課題を理解して解決策を展望できる能力を修得するとともに、指導者として必要な教育技法や国際的視野を涵養するための方策等について学ぶ。また、生活習慣病や加齢と動脈硬化、がん、認知症など地域の医療に密接に関連する疾患についての基礎・臨床研究や疫学研究、または、コホート研究等を遂行していくために必要な専門的知識を修得し、自立して研究活動を実践できる能力を身につける。

２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）地域医療が抱える課題に対して適切に対処できるようになるために、島根県および日本の医療資源や医療経済、行政、介護・福祉等についての知識を修得する。

２）医療における国際的視野を涵養するために、海外の医療の現状を学ぶ。

３）地域における患者・医師の良好な関係を構築し、コミュニケーションを円滑に実施できるようになるために、地域医療の体験を通じて、基本的な技能と態度を身につける。

４）信頼される地域医療を提供していくことができるようになるために、医の倫理・プロフェッショナリズムを身につける。

５）将来指導者としての役割を担うことができるようになるために、シミュレータ教育を含めた医学教育の知識と技能を修得する。

６）研究を適切に実施することができるようになるために、研究に関する倫理と研究者としての適切な姿勢を修得する。

７）研究を自立的に実施することができるようになるために、統計学と研究の遂行方法について修得する。

行動目標　specific behavioral objectives

１）解決すべき地域医療の課題を説明できる。

２）地域医療の課題に対する解決策を列挙できる。

３）海外と日本の医療の違いを概説できる。

４）研究における倫理と利益相反を説明できる。

５）自立的に研究活動を実践するために必要な事項を説明できる。

６）良好な患者・医師関係を構築することができる。

７）地域医療の担い手としての優れた倫理感を備えることができる。

８）教育技法を理解し、医療者の教育を実践できる。

９）優れた倫理感に基づいた研究を実践できる。

３．教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

４．成績評価の方法
　プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

５．使用テキスト・参考文献
　総合診療学Ⅰに同じ

６．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|---|---|---|
| 1 | 医学教育特論　（低・中学年（１年生～４年生）医学教育） | 石橋　豊 |
| 2 | シミュレータ教育（１）医学教育とシミュレーター | 石橋　豊 |
| 3 | シミュレータ教育（２）<br>総合医に必要な診療技術修得とシミュレータ教育 | 石橋　豊 |
| 4 | 看護と地域医療（１）総合医育成と看護 | 石橋　豊 |
| 5 | 看護と地域医療（２）総合診療と看護 | 石橋　豊 |
| 6 | 介護・福祉と地域医療 | 石橋　豊 |
| 7 | 医療行政と地域医療特論 A　地域医療構想と医療行政 | 石橋　豊 |
| 8 | 医療行政と地域医療特論 B<br>コミュニティの成長における医療行政の役割 | 石橋　豊 |
| 9 | 医療情報システム学特別講義 | 石橋　豊 |
| １０ | 実用医用統計学（１）健康に関する統計学の概念と基本（講義） | 廣瀬昌博 |
| １１ | 実用医用統計学（２）研究遂行の実践手法（ワークショップ） | 廣瀬昌博 |
| １２ | 地域における健康増進・疾病予防 | 熊倉俊一 |
| １３ | 地域における医療提供体制のあり方 | 熊倉俊一 |
| １４ | 地域の医療を担う人材の育成と支援 | 熊倉俊一 |
| １５ | 地域医療を守る住民活動 | 熊倉俊一 |

# 臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用
# Point of contact between Clinical, Social and Environmental Medicine and Advanced Informatics

単位数：２単位

○長井　篤　教授：医学系研究科医科学専攻　臨床検査医学
並河　徹　教授：医学系研究科医科学専攻　病態病理学
津本周作　教授：医学系研究科医科学専攻　医療情報学
神田秀幸　教授：医学系研究科医科学専攻　環境保健医学
磯村　実　講師：医学系研究科医科学専攻　病態病理学
山﨑雅之　学内講師：医学系研究科医科学専攻　環境予防医学
○平川正人　教授：総合理工学研究科総合理工学専攻　情報システム学
石賀裕明　教授：総合理工学研究科総合理工学専攻　地球資源環境学
廣冨哲也　准教授：総合理工学研究科総合理工学専攻　情報システム学

１．科目の教育方針

高度情報学に関する人間および環境との係わり、それらの研究の動向などについて、情報工学の基礎から現代社会での活用事例まで、講義・セミナー等において学ぶ。さらにその医学への応用については医学情報の持つ基礎的性格を理解し、がんを含む生活習慣病の遺伝学や疫学的研究手法を学ぶことで社会・環境医学の研究法とシステムを学ぶ。また、臨床現場で活用されている疫学や臨床検査学の研究方法、医療サービス設計などを理解する。基礎知識から臨床応用への発展を段階的に理解できるようにオムニバス形式の講義・セミナーで学ぶ。

２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）情報技術の現状と展望について理解できる。
２）情報と環境との係わりを理解できる。
３）医学情報の個人情報保護、疫学的な特徴、医療サービス設計への応用を理解できる。
４）医学情報からのデータマイニングの方法を理解できる。
５）医学情報を用いたがんを含む生活習慣病の遺伝学、臨床検査学への応用を理解できる。

行動目標　specific behavioral objectives

１）利用者から捉えた最近の情報処理技術の動向について理解できる。
２）情報との係わりの上で環境問題の現状について概説できる。
３）医学情報の個人情報保護、疫学的な特徴、医療サービス設計への応用を説明できる。
４）医学情報からのデータマイニングの方法を説明できる。
５）医学情報を用いたがんを含む生活習慣病の遺伝学、臨床検査学への応用を概説できる。

３．教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

４．成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

５．使用テキスト・参考文献

１）福嶋義光監修：遺伝医学 やさしい系統講義 18 講、ﾒﾃﾞｨｶﾙ・ｻｲｴﾝｽ・ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ、2013.

２）村松正實・木南凌監訳：ヒトの分子遺伝学第４版、ﾒﾃﾞｨｶﾙ・ｻｲｴﾝｽ・ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ、2011.
３）河合忠著：異常値の出るメカニズム第６版、医学書院、2013.
４）日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会編集：臨床検査のガイドライン JSLM2012、日本臨床検査医学会、2012.
※項目ごとに適宜文献を示す。

６．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担　当 |
|---|---|---|
| 1 | 情報活用に向けた人間指向コンピュータデザイン | 平川正人 |
| 2 | 心とコンピュータ | 平川正人 |
| 3 | 脳とコンピュータ | 平川正人 |
| 4 | 身体とコンピュータ | 平川正人 |
| 5 | センサ技術と情報処理 | 廣冨哲也 |
| 6 | 情報通信技術とアシスティブ・テクノロジ | 廣冨哲也 |
| 7 | 科学的情報をもとにした環境問題の解明と対策 | 石賀裕明 |
| 8 | 疫学資料の収集 | 神田秀幸 |
| 9 | 疫学資料と統計解析 | 神田秀幸 |
| １０ | 生活・健康福祉システムの活用 | 山﨑雅之 |
| １１ | 生活習慣病の集団遺伝学１<br>：遺伝子はどのように生活習慣病発症にかかわるか | 並河　徹 |
| １２ | 生活習慣病の集団遺伝学２<br>：生活習慣病遺伝子の同定法 | 磯村　実 |
| １３ | データマイニングの基礎 | 津本周作 |
| １４ | 地理情報システムの理解と活用 | 神田秀幸 |
| １５ | 臨床検査情報学<br>1）医学統計から導かれる臨床基準値の考え方<br>2）情報学を活用した最先端検査技術を理解する | 長井　篤 |

# 知的財産と社会連携

Intellectual properties and Social contribution

単位数：２単位

○中村守彦　　教授：医学系研究科医科学専攻　産学連携センター地域医学共同研究部門

１．科目の教育方針

知的財産に関する基礎および応用知識を講義・セミナー・実習等において習得し、さらにがん医療や次世代看護福祉などの高度医療における知的財産権を理解し、医工連携および看工農連携の研究事例や産学連携による新産業創出についての特論をオムニバス形式で学ぶ。知的財産について学んだ事柄を遂行できる力を培い、将来、産学連携による共同研究等を実施できる能力を養う。医療・看護の質向上に資する知的財産教育を実践し、専門的な知的財産権を活用して社会貢献できる人材を養成する。

２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）知的財産および知的財産権の概要を理解する。

２）医療領域における知的財産権の概要を理解する。

３）医・理工農連携および看工農連携の研究事例について理解を深める。

４）産学連携による新技術創出の状況を把握する。

５）産学連携を社会連携の視点から理解する。

行動目標　specific behavioral objectives

１）知的財産権の創造・保護・活用を説明できる。

２）医療分野における知的財産権の重要性を説明できる。

３）医・理工農連携および看工農連携による研究開発にあたり知的財産権を理解し行動することができる。

４）医・理工農連携および看工農連携による実用化の事例を説明できる。

５）研究・開発のマネージメントを説明できる。

３．教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。研究事例については、医・看工農連携による成果を体験実習して講義内容を深める。

４．成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、体験実習における態度、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5．使用テキスト・参考文献

1）辻本一義：研究・教育・ビジネス現場のための特許・知的財産権の教科書、PHP 研究所、2004.

2）隅蔵康一：これからの生命科学研究者のためのバイオ特許入門講座、羊土社、2003.

3）出川通：最新ＭＯＴ〈技術経営〉がよーくわかる本、秀和システム、2005.

4）技術経営コンソーシアム編集、三菱総合研究所監修：標準ＭＯＴガイド、日経ＢＰ社 2006.

5）沼上　幹：「わかりやすいマーケティング戦略」、有斐閣アルマ、2008.

※他、適宜特許公報、文献、資料などを配布する。

6．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担　当 |
|---|---|---|
| 1 | イントロダクション | 中村守彦 |
| 2 | 知的財産概論１（基礎編） | 中村守彦 |
| 3 | 知的財産概論２（応用編） | 中村守彦 |
| 4 | 知的財産権１（創造） | 中村守彦 |
| 5 | 知的財産権２（保護） | 中村守彦 |
| 6 | 知的財産権３（活用） | 中村守彦 |
| 7 | 知的財産特論１（医療分野） | 中村守彦 |
| 8 | 知的財産特論２（医工連携） | 中村守彦 |
| 9 | 医・看工農連携による研究事例１（総合事例） | 中村守彦 |
| １０ | 医・看工農連携による研究事例２（島根大学の事例） | 中村守彦 |
| １１ | 教育研究と社会連携 | 中村守彦 |
| １２ | 研究と開発のマネージメント | 中村守彦 |
| １３ | 産学連携による新事業創出事例 | 中村守彦 |
| １４ | 看護学を核とした学際融合研究と知的財産の創出 | 中村守彦 |
| １５ | | |

【医理工農連携プログラム開設科目】

# 機能性物質・食品の医療応用と環境影響

Medical Application and Environmental influence of Functional Materials and Foods

単位数：２単位

○原田　守　　教授：医学系研究科医科学専攻　免疫学
和田孝一郎　教授：医学系研究科医科学専攻　薬理学
川内秀之　　教授：医学系研究科医科学専攻　耳鼻咽喉科学
嘉数直樹　　准教授：医学系研究科医科学専攻　環境予防医学
福田誠司　　教授：臨床看護学講座
半田　真　　教授：総合理工学研究科総合理工学専攻　物質化学
田中秀和　　教授：総合理工学研究科総合理工学専攻　物質化学
西垣内寛　　教授：総合理工学研究科総合理工学専攻　物質化学
小俣光司　　教授：総合理工学研究科総合理工学専攻　物質化学
板村裕之（H28 年度まで）教授：連合農学研究科生物生産科学専攻
中務　明（H29 年度から）准教授：連合農学研究科生物生産科学専攻
川向　誠　　教授：連合農学研究科生物資源科学専攻
鈴木美成　　准教授：連合農学研究科生物環境科学専攻

## １．科目の教育方針

医療材料の開発とそれに伴う医療技術の進歩は、医療全般の向上に大きく貢献してきた。本科目では、医学専門家の立場からは、実際に医学に応用され医療の向上に貢献している機能性物質・食品について説明する。特に、生体の恒常性の維持に必須なシステムである免疫系、内分泌系、消化器系に焦点を当て、それらの基本的な作用機序・特性などを医学的・臨床的な視点から概説する。また、理工農学専門家の立場からは、生体内において多彩な機能を発揮する物質の開発や設計、化学物質としての環境への影響について、さらに、機能性食品としての市場性などについて概説する。

## ２．教育目標

一般目標　general instructional objectives

１）生理的条件下での機能性物質の特性を理解する。
２）栄養分や薬剤として有効な物質の効果を理解する。
３）生体内での機能性物質の作用を説明できる。

行動目標　specific behavioral objectives

１）新規機能性物質の開発・設計・合成の手法および生体内での機能について理解する。
２）アレルギー疾患制御、免疫賦活などの生命現象に関与する化合物を説明できる。
　機能性食品について理解する。

3）がん治療への機能性物質の適用を説明できる。
4）栄養分輸送の媒体である水、基本的栄養素であるミネラル（微量無機元素）の生体内での機能を理解する。
5）環境における機能性物質の特性と挙動、および環境への影響を理解する。
6）健康維持の中心的役割を果たしている消化管への機能性物質の影響を理解する。
7）内分泌かく乱物質の性質と生体への影響を理解する。

3．教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4．成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5．使用テキスト・参考文献

1）上野川修一・清水俊雄・清水誠・鈴木英毅・武田英二編：機能性食品の作用と安全性百科、丸善出版、2012.
2）清水俊雄：食品バイオの制度と科学－遺伝子組換え食品からニュートリゲノミクス－、同文書院、2007.
3）那須正夫・和田啓爾：食品衛生学「食の安全」の科学、南江堂、2011.
4）中島泉・高橋利忠・吉開泰信：シンプル免疫学、南江堂、2011.
※他、適宜文献、資料などを配布する。

6．教育内容

| 回 | 授業内容 | 担　当 |
|---|---|---|
| 1 | 消化器系と機能性物質<br>健康維持の中心的役割を果たしている消化管への機能性物質の影響を解説する | 和田孝一郎 |
| 2 | アレルギー疾患の制御に向けた機能性食品の開発と現状<br>アレルギー性鼻炎の病態や症状について解説すると共に症状を緩和する機能性食品の開発の現状を解説する | 川内秀之 |
| 3 | 機能性物質による抗がん免疫の誘導とがん治療 | 原田　守 |
| 4 | 機能性物質の生活習慣病治療への応用<br>生活習慣病治療における機能性物質の貢献　－現状と課題－ | 嘉数直樹 |
| 5 | 機能性食品と食の安全<br>我が国における機能性食品の現状と食の安全への取組み | 嘉数直樹 |
| 6 | 機能性物質の細胞への作用<br>機能性物質の正常細胞とがん細胞への効果の相違について解説する | 福田誠司 |
| 7 | 機能性食品による免疫応答増強に関する研究 | 原田　守 |
| 8 | 内分泌かく乱物質：環境ホルモンは機能性物質か？<br>内分泌かく乱物質の性質と生体への影響を解説する | 和田孝一郎 |
| 9 | 化学物質の環境への影響 | 田中秀和 |
| 10 | 新しい統計手法をつかった機能性物質の設計 | 小俣光司 |
| 11 | 機能性色素材料としてのフタロシアニン | 半田　真 |
| 12 | 機能性物質の有機合成 | 西垣内 寛 |
| 13 | 農作物の機能特性と利用 | 板村裕之 |
| 14 | 微生物による食品サプリメントの生産と市場性 | 川向　誠 |
| 15 | 生体におけるミネラル（微量元素の機能） | 鈴木美成 |

## 平成29年度時間割（博士前期課程・博士後期課程（網掛けは関連科目））

### 前期

| | 1･2 時限<br>8:30～<br>10:00 | 3･4 時限<br>10:15～<br>11:45 | 5･6 時限<br>12:45～<br>14:15 | 7･8 時限<br>14:30～<br>16:00 | 9･10 時限<br>16:15～<br>17:45 | 11･12 時限<br>18:00～19:30 | 13･14 時限<br>19:30～21:00 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 月 | | | | | | 超高齢看護<br>開発特講<br>N502 | 安全ケア<br>システム<br>開発特講<br>N502 |
| 火 | | 看護理論<br>N502 | 高齢者<br>看護学特論<br>N502 | 母子看護学<br>特論<br>3F<br>―<br>成人(急性・<br>慢性)看護学<br>特論<br>N404 | 母子ﾌｨｼﾞｶﾙ<br>ｱｾｽﾒﾝﾄ<br>方法論<br>3F<br>―<br>重症者ﾌｨｼﾞｶﾙ<br>ｱｾｽﾒﾝﾄ<br>方法論<br>N502 | 看護管理学<br>特論<br>N502<br>―<br>地域・在宅<br>看護学特論<br>N601 | |
| 水 | | | | | | | |
| 木 | | | 看護情報<br>管理論<br>1研<br>―<br>高齢者看護<br>実践論<br>N502 | 看護倫理<br>N502 | 看護研究方法演習<br>N502、情報演習室 | | |
| 金 | | | | | | 研究方法<br>特講<br>N502 | 超高齢看護学<br>研究演習<br>N502 |
| 土 | 土曜日等に嘱託講師の集中講義<br>講義日程についてはシラバス及び掲示で確認すること | | | | | | |

*2年次必修専門科目:「看護学特別研究」,「看護学課題研究」随時

*「高齢者看護学実習」については別途指示

※「超高齢看護学研究演習」のフィールドワークは夏季休業中に行うことがある

※「超高齢看護学特別研究」は随時

## 後期

| | 1･2 時限<br>8:30～<br>10:00 | 3･4 時限<br>10:15～<br>11:45 | 5･6 時限<br>12:45～<br>14:15 | 7･8 時限<br>14:30～<br>16:00 | 9･10 時限<br>16:15～<br>17:45 | 11･12 時限<br>18:00～19:30 | 13･14 時限<br>19:30～21:00 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 月 | | | 高齢者在宅ケアシステム論<br>N502<br>／<br>高齢者看護援助論<br>N502 | | | （コース別看護学演習）<br>総合診療学Ⅰ<br>セミナー室 | 総合診療学Ⅱ<br>セミナー室 |
| 火 | | | 認知症看護論<br>N502<br>／<br>臨床薬理･薬剤学<br>N502 | | 家族看護<br>援助論<br>N404 | （コース別看護学演習）<br>地域医療学Ⅰ<br>セミナー室 | 地域医療学Ⅱ<br>セミナー室 |
| 水 | | | | | | （コース別看護学演習）<br>環境医学Ⅰ<br>セミナー室 | 環境医学Ⅱ<br>セミナー室 |
| 木 | | | リスクマネジ<br>メント論<br>N502 | 看護人材<br>育成論<br>N502 | コンサルテー<br>ション論<br>N502 | 保健医療福祉<br>政策論<br>N502 | 医学・<br>医療情報学Ⅰ<br>セミナー室 |
| 金 | | | | | | （コース別看護学演習）<br>超高齢看護学<br>研究演習<br>N502 | がん医療社会学<br>セミナー室 |
| 土 | 土曜日等に嘱託講師の集中講義<br>講義日程についてはシラバス及び掲示で確認すること | | | | | | |

*2年次必修専門科目:「看護学特別研究」,「看護学課題研究」随時

*「高齢者看護学実習」については別途指示

※「超高齢看護学特別研究」は随時

※関連科目「地域がん治療学」「緩和ケア学」「臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用」「知的財産と社会連携」「機能性物質・食品の医療応用と環境影響」は、土曜日等の集中講義（9 月～3 月）

※関連科目の授業は、状況によって時間割を変更することがあります。

# 平成29年度 大学院医学系研究科看護学専攻 学年暦

| 月 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 行事等予定 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |
| | 曜 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 昭和の日 | | | 4日(火) 入学式 新入生オリエンテーション<br>12日(水)・18日(火) 学生定期健康診断(X線)<br>13日(木) 学生定期健康診断(内科)<br>19日(水) 学生定期健康診断(内科、耳鼻咽喉科、眼科) |
| 5月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | 曜 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | |
| | | | | 憲法記念日 | みどりの日 | こどもの日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10日(水)・16日(火) 学生定期健康診断(X線)<br>17日(水)学生定期健康診断(内科、耳鼻咽喉科、眼科) |
| 6月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |
| | 曜 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | 曜 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 海の日 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | 曜 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | |
| | | | | | | | | | | | | 山の日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |
| | 曜 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 敬老の日 | | | | | 秋分の日 | | | | | | | | | |
| 10月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | 曜 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | |
| | | | | | | | | | | 体育の日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10日(火) 医学系研究科入学試験(第1次募集)<br>13日(金) 修士論文中間発表会 |
| 11月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |
| | 曜 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | | |
| | | | | 文化の日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 勤労感謝の日 | | | | | | | | | |
| 12月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | 曜 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 天皇誕生日 | | | | | | | | | |
| 1月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | 曜 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | |
| | | 元日 | | | | | | | 成人の日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 22日(月) 修士論文提出 |
| 2月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | | | | |
| | 曜 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 建国記念の日 | 振替休日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6日(火) 修士論文発表会<br>10日(土) 医学系研究科入学試験(第2次募集)<br>23日(金) 修士論文最終提出 |
| 3月 | 日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |
| | 曜 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 春分の日 | | | | | | | | | | | 1日(水) 研究計画発表会(博士前期課程)<br>1日(水) 医学系研究科入学試験(第3次募集)<br>23日(金) 学位授与式 |